

ならんで歩き出したといったが、八月十五日の敗戦で感じた解放感とは、そのとき自分の内なる国家の思想を生まれてはじめて、それいさつぱりとあらわし流して、民権の立場に立つたことから出てきたものにすぎない。

そして、その後の「甲子」で、国権側がまきかきし、民権側はたすけられつばなしの後退というものは、南つて敗けたというよりもむしろ、私たちに民権側自身の内面から、再び国家の思想が再生し、気付けぬまゝその増殖をゆるめてきたというところに外ならないのではないか。

人権の問題は、その意味で、国権に対する民権の肉いとして、まず何よりも自覚される必要がある。

Shimada.com

やつてますが
健康法
原発ひとつで
すべてムダ!



イスラエル機によるイラクの原子炉爆撃手

は、世界中をしくかんとさせた。ところがイスラエル非難ばかりで、この事件が何よりも明らかにした。もし、これが稼働中の原発だったならば、という、身の毛もよだつおそろしさについてマスコミなど、まるでない合せたように触れないのは、一体どうしたのか。あまりにも重大で、手をつけたら大へんなことになる、という黙契でも出まていないのか。

① ① 戦争ともなれば、まづ先に、戦略的急所として、原子力発電所がねらわれる。(日本の原発はみな海岸にある。潜水艦からの破壊で二巻の終り) (別に原子炉に命中せずとも、効果は同じだ。原発構内の例えば大小数方に及ぶパイプ、継手、ポンプがはずれたり曲つたり、こわれて、冷却水が噴きだしたら、手のうちようもない。原子炉が無産でも、冷却水が送られてこなければ、炉心熔融という最悪事態になるのは火をみるより明らか) せまい日本列島に、いまでも22基をひしめいているということでは、それだけで致命的。

② たとえ平時でも、原発が建ち、動いているというところはつまり原発の存在は軍事的にもつとも恐い。しかも防護の方法がない致命的な弱さをさらけ出していることだ。それは、ごんなに自衛隊を増強し、装備の新鋭化をはかろうとも、その全部を無意味化する。昨今はやりの軍備論者のまことしやかな主張も、原発ひとつでナンセンス。一方で軍備の充実を叫びながら、一方で原発を推進するなんてことは、まるっきりの矛盾である。

x x x x x

そこで、ぼくがいまどうしてもないたいことは―― まずは、南電が原発をたてようとしている和歌山県日高町の一松町長さん。一戦争は絶対に永えにおこらないとの確信がありますか。万が一、そのとき、まづ先にねらわれて、日高町一帯は放射能砂漠となり、人ひとりいない死の町となることを覚悟してありますか。そんなことはいらないなら、せめて何年大丈夫という保証を一筆かいて発表して下さい。あしたに、そ

へな大それた責任がとれますか。はよ町長様のなさい。それから、ぼくのひとりごと……

「イラクの原子炉バクダディ、ともかくエエことや。いつだったかスペインで、建設中の原発が爆破されたことがあったけど、それをふくめて原発はこの世の中に、一つでもないのがエエ。イスラエルのやり口は気に入らんけど、原発計画をぶつかわすのは、この世の如何をともせずサンセイヤ、国際法違反なんて次元の凶物やないでエ。」

天皇の御用

▼ Xモ権からの抄出

▼ 「テレビ」新聞など、マスコミ各社には、皇室用語辞典がつくられている。最近、共同通信社も出した。一九四八年、宮内庁とマスコミは、用語について協定した。例えは、奇異でないふつうの言葉は「ワタクシ」、必ず敬語で、最上級のことばをつかうなど。

▼ 一九五二年、国語審議会は「皇室用語」を決定している。

▼ 天皇・皇太子の御用は、一面右に段におくこと、が宮内庁からの要望で、決定している。

▼ 戦前・戦中で発表されたもの多くは、その内容ではかく、字遣いが印刷してみた之不鮮明なため不可、という理由が多い。

▼ 大逆事件生残りの坂本清馬と岡林重松の二人が、昭和21年復権の請求にいつて時の司法省次官佐藤敏介にあつたところ、日本の国体は変わっていない」と云われた。

▼ 植樹祭当日の状況をあらわす、社会タイムスの投書記事。(イイム前を参照)

▼ 京都・大阪・兵庫(オートバイ)を天皇がごまごまといまはつたの警備はらぶつと常軌を逸したものであつた。とくに兵庫は、姫路のウリの誘惑をうらなど連日見張られた一こか。↓

▼ 南西電力は一般大手企業がどうつて感益の中を、×タ×タにもうけたらしい。そのモウケかくしのおぼれが、ぼくのとこへも廻つてきた。後念が終つた翌日は、阪急百貨店からの配産品はて何やるとみたら創立三〇の年を銘うつて株主への記念品、五珠の時価五〇〇四、位の丁さいのよいパン切りナイフ。千二百珠の人の、時価七千四ほどの地盤。この支出物を物好きに推定すると、三、四億円。社員や関係業者にもばらまいてるだろうし……エライことである。原発現地へ湯水のように流してこれ東作戦、想像にあまる。

それがみえな、ぼくらの電気代。ぼくのとこへの電話は、午後一時以降におかいます。 6月28日 龍二

何を恐れている？

五月二十四日の日曜に、京都に用事あり近鉄の駅へ行く。制服の警官が三人、私服の警官とおぼしき人が一人、近鉄職員三人の前人がホームにいた。もちろん急行も止まらなかつた。今日は何かあるのかなと考える。奈良で、天皇をむかえて被爆後があることを思い出した。京都にゆくまでの間、近鉄沿線は、各駅はもつと、線路と交差する道は、車も通れない山んぼ道や、沿線ぞいに警官や近鉄職員が二、三人立っている。京都駅には百餘目であつたが、その警官の間を行客が抜かなければならぬ。この警官は、絶対にはやむを得ない「警備」である。この警備は、絶対にはやむを得ない。国民の怒りを殺してのことである。新聞によると、今回費用は三億五千万円とか、一人の人間が東京から奈良へ行くには何ぼよつと費用がかかりすぎるのではなからうか。天皇を護るには、これだけの費用があつたが、この税金のふた使用に、天皇も情はなげけるのか、朝から。ぼくらの血をええかきんごに使うな。